

事後報告書

(2016年度：研修時法学類4年)

エジンバラ法律英語研修では、英国の歴史や裁判制度、民法や刑法など幅広く学びました。1つの分野を集中的・専門的に学んだ訳ではありませんでしたが、だからこそ幅広い知識と語彙が要求されるものでした。法律英語の語彙が貧困であったためにはじめは苦勞することもありましたが、毎日の講義の中で繰り返し学ぶことで、またそれらの単語をディスカッションで使うことで、法律英語を以前よりも習得することができたのだと思います。以下では、ポスタープレゼンテーション、施設見学、フィールドワークに焦点を当てて、エジンバラ研修について報告します。

2人1組で判例評釈をポスターにまとめて発表するというポスタープレゼンテーションを行う機会がありました。英国の判例であるだけに、その判決の意義は何なのか、どのような法律問題が含まれているのかなど、日本の裁判例を評釈するよりも難しい点が多々ありました。何よりも苦勞したのは、質問に対する準備です。聞き手からの質問に答えるには、発表者自身が当該判例について十分に理解していることが必要となるため、パートナーと何度も練習し、仮想の質問を互いにし合い、本番に備えました。このポスタープレゼンテーションを経験することができたからこそ、英国の法律・裁判制度への理解をより深めることができたと思います。



また、施設見学としてスコットランド議会と裁判所を訪れました。スコットランド議会を見学し話を聞く中で印象に残っているのは、議員の多様性です。特に党首の大半は女性や同性愛者であり、人種の多様性が政治の現場にも反映されていることに驚きました。そして裁判所見学では実際の刑事裁判を傍聴しました。裁判官、弁護士、検察官は早口で声も小さく、また専門用語も多いため、なかなか理解することができませんでした。日本の裁判との類似点や相違点を探するなど、その場にいるからこそ学べることが多く、興味深い体験となりました。

グループごとにフィールドワークを行い、その集計結果を分析し、研修全体の集大成として発表するという機会もありました。私たちのグループは、死刑制度をテーマとして選択しました。自分たちでテーマに沿ったアンケートを作成し、エジンバラの人々に答えてもらい、死刑制度に対する意識調査を行った上で、日本と比較しました。このプレゼンを通して、PPTを使用した英語での発表の方法を学びました。原稿を用意するのではなく、メモカードに発表することを書き出しておいて、そのメモカードを見ながら発表するという方法です。大学院に進学した今でも英語のプレゼンにおいてはその方法を用いています。留学生のプレゼンを見ていると、メモカードを用意している人が多く、万国共通なのではと少し嬉しく感じています。

よく学びよく遊び、エジンバラでの研修はたいへん充実したものでした。おいしいごはんや優しい人々、素敵な街並み、エジンバラが大好きになりました。



エジンバラ研修報告

(2016 年度：研修時大学院人間社会環境研究科法学・政治学専攻 1 年)

【参加した理由】

私が、エジンバラ研修に参加しようと思った理由は、3つあります。まず一つ目に、英語力の向上です。学部時からこれまで TOEIC など受験し、英語の勉強を続けてきたので、自分の英語力が現時点でネイティブとの会話でどれくらい通用するものなのかを確かめ、自分の弱点を見つけたいと思いました。二つ目に、英米法に関心があったからです。大学院では、これまで勉強してこなかった外国法に挑戦したいと考えていました。そして、このプログラムを知り、自分にとって良い機会だと思いました。最後は、イギリスという国自体に興味があったからです。私はこれまでイギリスに行ったことがなかったので、その街並みや人、自然、食がどんなものなのかに興味がありました。今回はホームステイができるということで、現地の人も交流が多いので、その点も魅力的でした。

【学んだこと】

現地では、英語の発音 (syllable など)、発表やインタビューの際の質問の仕方等、基本的な表現方法を教えてもらい勉強になりました。また、英米法に関して、ある事件をポスターで紹介する授業では、「契約関係のない不法行為責任」(Donoghue v Stevenson 事件) を取扱い、契約関係にない当事者間に不法行為が生じるのはなぜか、という問題に対して、英語での発表を通して、その理論構成を学ぶことができたのは非常に良い経験でした。今後の自分の研究や勉強にも役立ち、また外国法の知見を取り入れることの重要性を認識しました。また、研修終盤のプレゼンテーション発表では、「スコットランドの裁判員裁判」を取り上げ、現地の方 20 人ほどにインタビューし、発表後みんなで議論したことで、英語力の向上はもちろん、日本の裁判員制度を一市民として考えるきっかけを持つことができました。特に裁判員の裁判への関わり方は、日本とスコットランドでは大きく違うので、今後の日本の裁判員制度のあり方を考える上で、有意義でした。その他にも、刑事裁判や国会議事堂見学を通し、日本のそれらとの相対化を体験できたことは、今後の勉強にも役立つと考えています。



【後輩へのアドバイス】

日本での事前学習としては、英語力の向上が重要だと思います。行くと決まってから半年ぐらい準備期間があるので、その間に TOEIC や基本的な英会話の勉強をしておく、現地での滞在がより有意義なものになり、またきっと楽しいものになると思います。また、法律面では、何か一つ自分の興味がある分野（例えば、死刑制度、移民問題、アファーマティブアクションなど）について日本の制度や法を調べておくと、現地でのそれと比較できるので、授業が楽しくなると思います。

そして、最も大事なのが、事前学習で積極的に英語でみんなの前で発言し、自分の意見を言う練習をすることです。現地では、グループディスカッションの授業が主ですので、自分の意見を間違ってもよいので主張していくことが重要になります。この技術は、慣れもありますので、事前に免疫をつけて、堂々と話すことができるようにしましょう。

最後に、フィッシュ&チップスは美味しいので、是非食べてみてください。



エジンバラ法律英語研修を終えて
(2016年度：研修時法学類4年生)

エジンバラで過ごした3週間は私にとってかけがえのないものになりました。私にとっては今回が初めての海外で、一念発起してこのプログラムに申し込んだものの、正直不安を抱えていました。それは語学に関してであったり、ホームステイ先やエジンバラ大学の先生とのコミュニケーションであったり、様々なものに対してでした。しかし、エジンバラで3週間を過ごして自分の考えが大きく変わりました。

大学での授業やホストファミリーとの会話の時、最初は言いたいことがあってもなかなかうまく言葉にできませんでした。そんなとき、つい私は **Sorry** と言ってしまうのですが、エジンバラ大学の先生もホストマザーもわからないことがあってもうまく言葉にできなくても謝らなくていいと言ってくれました。その言葉に私は何度も励まされ、次第に **Sorry** と口に出すことがなくなりました。彼女たちの言葉のおかげで自信が持てちゃんと発言できるようになり、会話も楽しくなりました。

会話が楽しくなったことで自分から発言することに抵抗がなくなりました。日本では沈黙は許されていますが、海外では沈黙すると日本以上に重たい雰囲気になるので何かしら話さないといけません。エジンバラでの授業と生活はそれを実感させるものでした。答えが思い浮かばないときの会話のテクニックなども授業で学ぶ機会があり、授業中に実践することも多々あり、不器用な私でも身に着けることができました。この感性やテクニックがわかったことで、日本での授業の受け方も変わりました。それまでは受動的でしたが積極的に発言するようになり、答えに詰まった時もうまく対処できるようになりました。

エジンバラにいる間は勉強も大変でしたが、充実した日々を送りました。観光の中では、エジンバラの古き良き街並みやエジンバラ城などの名所を巡ったことが、自身の見聞を広める意味でとてもいい経験になりました。よく大学近くのアーサーズシートという丘へ登りに行きました。その頂上から眺める風景が素晴らしくて、滞在中何度も足を運びました。



エジンバラの名所は授業を受けながらの3週間ではとても回り切れなかったのも、必ずまたエジンバラを訪れ他の場所も見たいと強く思います。

一緒にプログラムに参加したみんなとも仲良くなり、研修後も交流が続いています。

この研修は私を大きく成長させてくれました。研修を終えてから多くの人が変わったねと言われるようになり、そのことに嬉しくなります。



余談ですが…

ホストファミリーの家で飼っている犬がかわいかったです。
私のベストショット

エジンバラ大学法律英語研修 事後報告書

(2016 年度：研修時法学類 4 年)

1 はじめに

2017 年 2 月 18 日から 3 月 12 日までの計 22 日間、スコットランドのエジンバラ大学において法律英語研修に参加した。私が法律英語研修に参加した理由は本研修後の 4 月から社会人として働くことになるが、英語は必要不可欠なスキルであり、そのスキルを磨き続けるための契機としたかったからである。私は 2015 年にもエジンバラ大学の社会科学研修にも参加しており、今回が 2 度目の研修となった。そこで、前回の研修の内容と比較しつつ述べていきたい。また、ホームステイや週末の過ごし方についても言及する。

2 研修の内容

前回の研修ではスコットランドの独立投票の時期に重なったこともあり、独立投票やイギリスの経済や法律など社会科学の講義が中心であり、広く浅く学んだ印象があった。しかしながら、法律英語研修ではイギリス法と日本法の比較や民法・刑法などの基本法を学び、国会議事堂と裁判傍聴の現地訪問など法律に特化した研修を行ったため、密度の濃い講義であった。

それに加えて、今回の研修では著名な事例の研究と街頭アンケートに基づいたプレゼンテーションもカリキュラムに組み込まれており、授業外の時間を活用し、発表の準備を行った。発表の準備としての街頭アンケートでは道行く人に調査を実施したため、現地の方々と会話する機会などにも恵まれ、英語のコミュニケーションスキルの向上に繋がった。事例研究やプレゼンテーション発表は内容について報告したのち、報告者と聴講者がともに活発的な議論をしており、非常に有益であった。今回の研修では課題も多く課され、英語漬けの日々であったが、語学研修としてはとても充実した時間を過ごすことができた。

3 ホームステイ

今回のホームステイも印象深く刻まれている。スコットランドの伝統的料理であるハギスやスコティッシュ・ブレックファーストを食べ、スコッチウイスキーを飲みながらイギリスや日本の文化について色々と語り合い、時が経つのを忘れて話し込んでいた。また、私はホームステイ先の家族のおかげでラグビーも興味を持つことができた。ラグビーのルールさえ知らなかったが、ルールを教えてもらうことでラグビーの試合を一緒に観戦し、楽しむことができた。今後もイギリスの国民的なスポーツであるラグビーに注目していきたい。このように、ホームステイ先の家族は私に対して親切・丁寧であり、私の視野を広げてくれた。本当に感謝している。

4 週末の過ごし方

本研修では週末を利用し、旅行を楽しんだ。平日の授業後、エジンバラ市内を観光し、アーサーズ・シートという丘に登ったり、市内のカフェや国立博物館にも訪れたりした。エジンバラ周辺は研修期間中バス・トラムが乗り放題になるカードを利用し、様々な観光地へ行くことができた。週末はエジンバラ郊外や他の都市も観光に訪れた。ここでは、印象に残っ

た観光地を紹介したい。

スコットランドの北部にあるヨークという都市へ足を運んだ。海外において初めての一人旅であり、緊張していたが、どうしても行きたい場所があった。それはイギリス国立鉄道博物館である。イギリスは鉄道発祥の地であり、世界最大規模の鉄道博物館だと知り、訪れた。特に、ヨーロッパのユーロスターと日本の新幹線は詳しく取り上げられていて、日本を誇りに思った。私は日本に住んでいるだけでは分からない側面を見出す楽しみに触れることもでき、満足している。

5 おわりに

前回のエジンバラ市内の印象は独立投票が間近ということもあり、「活気に溢れている」印象であったが、本研修では古き歴史を尊重し、良き文化を取り入れていくという新たな一面を垣間見えた気がしている。2度訪問しても飽きることなく、魅力あふれる街であるエジンバラにぜひ今後も足を運びたい。



↑エジンバラ市内とエジンバラ空港を約30分結んでいるトラム
2014年に運行開始したばかりで車内ではWi-Fiも利用できる。



↑今年、世界遺産に登録されたフォース鉄橋
写真1枚に収まりきれないほどの大きさ
エジンバラ郊外にあるが、エジンバラのロジアンバスで行くことができるので、利便性はよい。



↑ホームステイ先の台所と食卓
ここで、夕食時にスコットランドの話や観光名所を教えてもらいながら日本の話をしていた。



↑ヨークのイギリス国立鉄道博物館

左が日本の新幹線の0系 右はヨーロッパのユーロスター

この他にも多種多様な車両が保存されており、入場料は無料

また、2階の展望からヨーク駅や走っている電車を間近に見ることもできる。



↑2015年に開通したボーダーズ鉄道の車窓

エジンバラから南に延びる鉄道で1時間に1本程度運行

上記のような大自然を眺めながら観光できる。